

評価項目	方策と手立て	評価指標	主な評価方法(評価結果)		自己評価		結果の考察・分析及び改善策等	評価(4～1)	学校運営協議会委員コメント
			項目別	総合	項目別	総合			
たくましい体	体力の向上を図る	体力向上プラン作成による実態・現状把握	体力テストの目標達成(D・Eの児童を男子25%以下、女子20%以下)	体力テスト	男子 22% 女子 15%	3	体力テストの結果について、依然2種化が進んでおり、D・E判定の児童の割合は目標を達成できたが、全体的に体力向上が図られているとはいえない。柔軟性を高めるためのストレッチ運動等を授業の中で継続的に取り組んでいくことで改善を図りたい。 むし歯の治療率が目標とは差があり、保護者に継続的に啓発していく。未治療の児童に対し、個人の歯の様子を知らせ、保護者からの一言をもらうことで、意識を高めるようにした。保護者からの反応もあり、効果があった。 姿勢指導週間を設定して児童に意識付けを図るようにする。(2月) 食事のマナーについては、保護者との意識にずれがあり、今後も継続的に指導が必要である。箸の持ち方やお箸の持ち方等、できていない児童が多い。	3	【体力向上】 ○体力が落ちているのには、戸外での活動が少ないのではないかと、ゲーム、タブレット等体を動かさず視力の低下にもつながっていないか心配である。 ○コロナ禍による外遊びの減少も体力面に影響しているのではないかと感じている。 ○2種化であることと全体的向上が言い難いことについて、ストレッチ運動等を授業に取り組みほかに、昼休み時間の活用は？遊びの中で体力向上も期待できるのでは。 ○体育の授業の参観があっても良いと思う。 ○学校での指導については、先生方の日頃の努力が結果に現れていると思われる。 【保健指導】 ○むし歯治療を含めて家庭との連携なくして健康面の取組は効果が上がらないので、情報発信を密に行うと共に家庭への協力依頼を積極的に行った方がよいと思う。 ○むし歯治療は、日々成長している子どもには影響する。保護者への意識を継続的に高めてほしい。 ○むし歯が未治療である理由について、保護者から聞き取る。 ○むし歯治療率等を含む保護者の家庭での取組等について、保護者の意識改革等の継続的な取組の必要性を感じた。 ○むし歯の治療率が48.0%であることは気になる。各家庭に積極的なお知らせ等をして、保護者とのやりとりを引き続き行ってほしい。
		「楽しい体育の授業」の実践	体育の時間や昼休み時間に楽しく運動する子 90%以上	アンケート	89.9%	3			
		運動や遊びの日常化(一校一運動の実践)							
	保健・安全教育的な充実を図る	生活リズムチェックの実践・指導・見届け	姿勢に気をつけている生活している子 80%以上	アンケート	77.5%	2			
		「早寝・早起き・朝ご飯」に取り組む子 85%以上	アンケート	89.1%	3				
食育の充実を図る	歯の治療の促進(保護者啓発も含む)	むし歯治療率 85%以上(非むし歯+治療率)	治療率	48.0%	2				
		実践力の身につく安全指導、避難訓練	自ら自分の身を守ろうとしている子 85%以上	アンケート	86.2%	3			
		食育の推進	出された食事をマナーに気を付けて食べている子 85%以上	アンケート	94.9%	3			
豊かな心	望ましい基本的な生活習慣・態度を身に付ける	自己指導能力の育成(計画的な全校SSTの実践他)	いじめ問題や生徒指導に積極的に取り組んでいる 80%以上	アンケート	84.2%	4	【生徒指導全般】 ○SNS等が発達し、友達や親も直接話すことも少なくなってきたと思う。自分の意見を言う場がSNS上で行われているのも気になる。 ○豊かな心を育む取組は、数値化しての評価は難しいが、「楽しい」、「うれしい」、「悲しい」、「つらい」の思いが表現できる環境設定を時間にかけて良い方向に構築していく工夫も必要だと思う。現在の取組でも十分対応できているとは思っています。 ○「いじめ」に発展しないよう見守って、先生・親・連・相を忘れないで。 ○低学年から高学年まで地域では5～7人くらいのグループでよく遊んでいる姿が見られる。自転車で2、3列横になって乗り回している姿は、最近ほとんど見かけなくなり、学校での指導を守っていると思う。 【あさいつ指導】 ○あさいつのできる「けやきっ子」に育っていくような「あさいつ運動」の継続を願う。 ○登校中に地域がきちんとあさいつすることのメリットを子ども達に指導してほしい。 ○自分からあさいつが進んでいくことが大切だが、学校外でどこまであさいつしているのかは、疑問である。こちらから挨拶するときにできるが児童からはあまりできていないように感じた。	3.2	
		自主的な学級の係活動や全校ボランティア活動の推進	「学校ボランティア」に取り組む子 85%以上	アンケート	88.4%	4			
		キャリアパスポートの有効的な活用							
	規範意識を育てる	いつでも、どこでも、誰にでも大きな声での挨拶・返事	自分から明るいあいさつや返事ができる子80%以上	アンケート	82.6%	2			
		梅北小「よい子の約束」の指導	きまりを守って生活している子 80%以上	アンケート	87.7%	4			
思いやりの心を育てる	道徳の時間、学級活動の時間の充実	友達と助け合って生活している子 85%以上	アンケート	89.1%	3				
	人権教育(自尊心、他者理解)の充実								
自ら考える力	学力向上を図る	「学習のルール」の指導の徹底	「学習のルール」を守っている子 80%以上	アンケート	93.5%	4	学習規律や学習意欲については前年度に比べ改善が見られた。ICT活用についても素晴らしい結果が見られている。 ただし、自分の意見を発表したり説明したりする児童の数値が低いため、授業の中で児童が活躍する場面であったり自分の意見をもたせたりする手立てが必要であるとする。 読書活動については、学校全体で読書をする姿勢が見られているため、おおむね良好な結果が見られている。	3.5	
		落ちついた学習環境の工夫(雰囲気づくり)授業改善の「わさび」を意識した授業の展開	CRTテスト全国平均以上 60%以上	CRTテスト	-	3			
		県・全国学力調査 平均以上	学力調査	国-11.2p、算-11.5p	-	-			
		分かるまで、できるまで学習する子 80%以上	アンケート	91.3%	4				
		表現活動の質の向上を目指した授業づくり(昨年度までの主題研の継続)	自分の意見を発表したり説明したりすることができる子 80%以上	アンケート	72.5%	2			
	読書教育を推進する	ICTの段階、ステップ0、ステップ1、ステップ2の達成をめざす教育活動の実践	タブレットを活用しながら意欲的に学習する子80%以上	アンケート	98.6%	4			
		図書室の積極的な活用と内容の充実	年間図書貸出し数(一人100冊、全体15100冊)	貸出冊数	11010	4			
		家読(親子読書)の推進	読書量調査の結果が、昨年度を上回る	読書量	上回った	4			
		くれよん号やひばり文庫の積極的活用	進んで読書に親しむ子 80%以上	アンケート	82.6%	3			
		計画的な読み聞かせ活動の推進							
家庭学習の習慣化を図る	中郷中ブロック小中一貫学習習慣ガイドの活用	家庭学習の習慣が身につけている子 80%	アンケート	85.5%	3				
地域との連携	学校運営協議会の充実と地域と共にある学校づくりを推進する	中郷地域めざす児童生徒「地域に誇りをもって、夢に向かって、明るく元気に努力する中郷の子ども」の具現化を目指した3つの具体的方策の推進	学校運営協議会が計画的に実施されている 90%以上	実施率	100.0%	4	前年度に比べ、学習支援ボランティアを多く活用することができた。コロナ禍が一段落し、活用しやすい状況になったためだと思う。 学校からの情報発信については、保護者も職員も満足いく結果になっていると思われる。 地域の行事に積極的に参加している児童は目標値をおおきく上回っているが、関心が高いかといわれるとそこまではないかもしれない。地域や家庭と連携しながら改善策を探っていきたい。	4	
		地域を生かした学習の充実	地域人材や資源が教育活動に活用されている 80%以上	アンケート	85.1%	4			
	地域素材の活用や交流を通してのふるさと学習の充実を図る	学校支援地域本部(学校支援ボランティア)の活用	学校支援地域本部(学校支援ボランティア)の活用 年間100人以上	活用数	141人	4			
		地域貢献活動の実施	地域の行事に積極的に参加している子 60%以上	アンケート	72.5%	3			
	情報の積極的な発信と家庭・地域・関係機関との連携する	積極的な情報の発信(ホームページや学校だより等)	学校だよりやホームページによる啓発がよくなされている 85%以上	アンケート	98.7%	4			
			参観日等の積極的な呼びかけとPTA活動の充実	参観日や学校行事の設定 85%以上	アンケート	90.6%			4